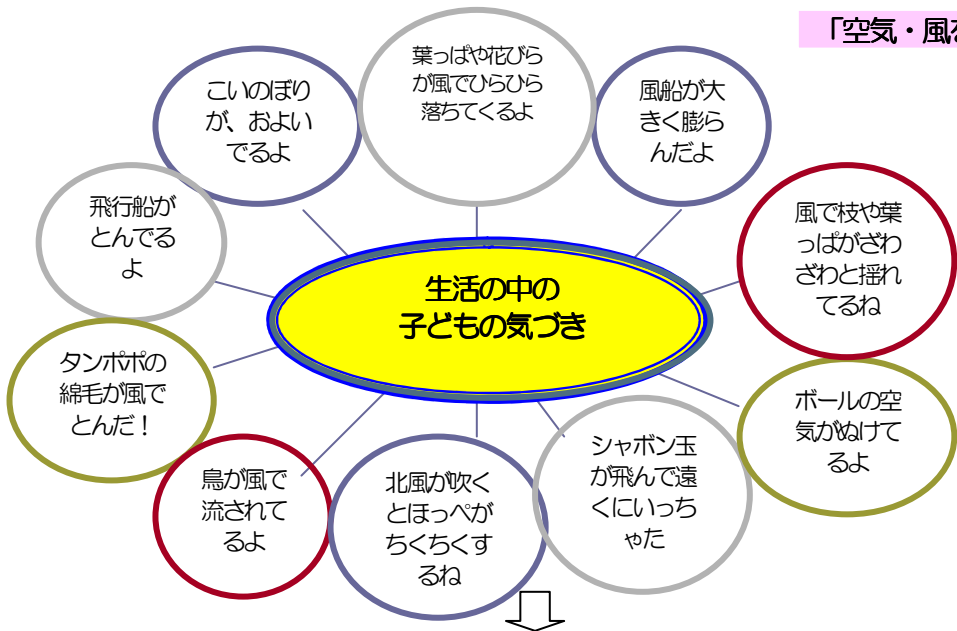


「空気・風を見る」活動の流れ



空気ってなあに？  
風ってなあに？



空気・風とあそび

空気・風を見る

実践 ひゆるひゆるロケット

子どもの姿

- 夏が過ぎて心地よい風を感じる季節になった。戸外で全身で風を受けながら走ったり、追いかけてっこをしたりしている。

ねらい／経験させたいこと

- 季節の変化を感じ、風を全身で感じる
- 錘と風の力によって跳ぶ事を知らせる

環境設定

- 粘土やすずらんテープ、紙テープ、牛乳パックなどの身近な素材を用意する
- 風の力を利用したおもちゃを保育士が作り子どもが自由に手にとってあそぶことができるようにする

## 子どもの活動と保育士のかかわり



- ・ テープ状に切ったすずらんテープを5本程束ね、先端に粘土の錘をつける手順を知らせる。「錘の大きさはどれくらいかな?」と、考えて作っている。
- ・ 実際に飛ばして見ると、すぐに落ちる物、遠くまで飛ぶものがあることに気づき『おもりが小さいとすぐにおちるね。大きくしたらいいのかな』と、遠くにとばすには、どうしたらよいかを探っている。
- ・ 場所によって飛び方が違うことに気づき『こっちの向きがいいね』『草の向きと同じなら飛ぶよ』と、風向きを意識し始めている。
- ・ 風に乗るとテープがひゅるひゅるときれいに流れ、5メートル程跳び、風に乗る勢いがつく事にも気付いている。

## 子どもたちの試す・考える



- ① 錘の大きさを変える
- ② すずらんテープの長さを変える
- ③ 飛ばす場所を低い場所から階段などの高いところにかえる
- ④ 同じ高さで場所を変えて飛ばし、よく飛ぶ風向きを調べる



## 評価・反省

保育士とではなく、友だち同士で考えて作るが多くなった。自分で工夫した部分に成果が見られ、「もっと飛ばしたい」と、いう意欲につながっているのを感じた

## みどころ

空気や風に気付く子どもたちの10の姿をあげて、活動の流れや「空気・風を見る」というテーマを共通の視点で捉えられるようにしています。そして、子どもの活動や経験する内容をおさえて、「風の力を利用して遊べるもの」を保育者が作り、まず「自由に手にとって遊ぶことができる」環境を設定しました。子どもの実態に応じた環境があったことで、幼児なりに試したり考えたりすることができ、<錘の大きさを変える><すずらんテープの長さを変える><飛ばす場所を低い場所から階段などの高いところにかえる><同じ高さで場所を変えて飛ばし、よく飛ぶ風向きを調べる>といった行動が引き出されました。保育者の作った物で遊んだことをきっかけにして、自分たちで工夫して作った物で遊ぶ面白さを味わうことができました。

また、子どもたちが場所によって飛び方が違うことに気づき「こっちの向きがいいね」「草の向きと同じなら飛ぶよ」と、風向きを意識して会話をしている場面を、保育者は逃さず捉えています。目に見えない風を対象にし、子どもたちが経験していることを捉えるには、ポイントになる動きや言葉を的確に捉える必要があります。